

すべての人に

健康を

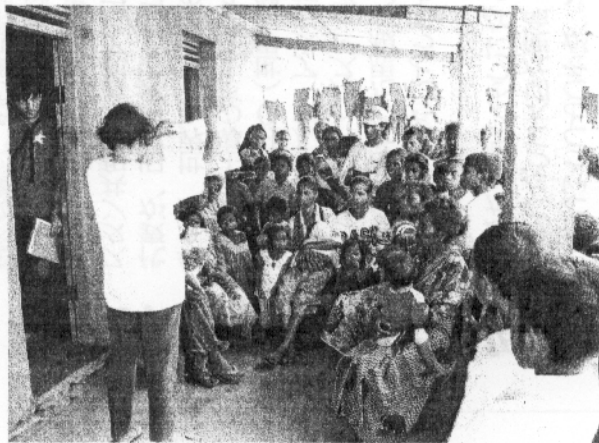
「シエラ」国際保健協力市民の会

この文章をちようど書き始めた11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、その直後に東日本の沿岸地方を広く襲った大津波は激甚災害となった。

数日後の現時点でまだ被害の全容はつかみきれていないが、万余の尊い人命が失われた可能性が高い。犠牲となり、心身ともに傷ついた多くの方々とご家族、地域住民に心からお悔やみを申し上げる。保健医療NGOとして過去の救援経験を基に、被災地の人びとに少しでも寄り添えるような活動を開始したい。

医療とは人権

本田徹



学校での保健教育活動を支援=2005年2月、東ティモール・エルメラ県

安心でできる社会を目指す

さて、エチオピアで1年間の間にわたり、干ばつ被災者の医療救援に従事した私

紀にわたって途上国や一部の先進国で、重要な医療保健政策上の指導理念となった。

始する空しさを実感した。いかに住民自身が気付き、自らの健康問題を解決していけるように協力していくかということこそが、NGOにとって大切な使命・課題だと思ふようになった。

優れた理念・先行例に学ぶ

その際私たちにとつてよりどころとなった思想が、プライマリ・ヘルス・ケアに関するアルマ・アタ宣言である。WHO(世界保健機関)の主導の下1978年9月、世界140カ国の代表が、旧ソ連邦の力ザフスタン共和国の首都アルマ・アタ(当時)に集い、真剣な協議の後に出された歴史的文書だ。その後四半世紀にわたって途上国や一部の先進国で、重要な医療保健政策上の指導理念となった。

(医師、シエラ国際保健協力市民の会代表理事) 掲載は毎月第4日曜日